

Vascular Street Journal

 特集

福岡大学筑紫病院 循環器内科 & 福岡大学西新病院 心血管・リズムセンターのご紹介



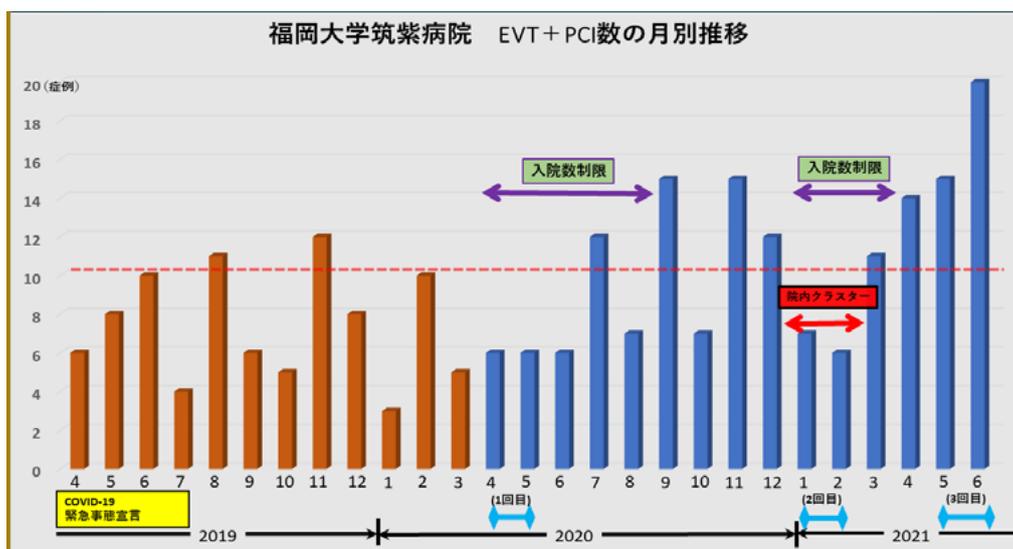
福岡大学筑紫病院



福岡大学西新病院

福岡大学筑紫病院 循環器内科

福岡大学筑紫病院(以下、筑紫病院)は2013年5月に新病院を開院し、はや8年が経ちました。許可病床数は310床(一般308床、感染2床)で、循環器内科は元来20床でしたが、COVID-19専用病床を増設したため、現在17床で稼働しています。2020年の循環器内科では、COVID-19の影響で、5～7月こそ不要不急・受診控え・紹介控えの影響もあり、病床稼働率、心カテ症例数とも落ち込みを見せましたが、8月以降は順調に回復し、12月まで病床稼働率:100%以上、冠動脈インターベンション(PCI)/末梢血管形成術(EVT):月間10例以上を維持しておりました。ところが2021年1月にCOVID-19の院内クラスターが発生し、病院機能を一次ほぼ停止せざるを得ない状況になってしまいました。しかしそこからV字回復を見せ、2021年6月現在では、過去最高のPCI/EVTの月間症例数を記録しています(図)。これもひとえに医局員一同の奮起の賜であると思っています。



また、筑紫病院は、地域医療支援病院として、広く地域に開かれた病院であり、地域医療への貢献が大命題であると考えます。筑紫野市の人口は、30年間で約39000人増加しており、平均寿命についても、平成27年で男性81.0歳、女性87.5歳と、男女ともに伸びています。今後、患者の超高齢化により、心不全患者数が爆発的に増加する、「心不全パンデミック」の襲来が予想されており、筑紫野市も例に漏れません。循環器内科では、広く他科や他院の症例にも対処し、来る心不全パンデミックに備えると同時に、広く地域に開かれた病院を実践したいと考えています。そのためにはまず、病診連携ネットワークの構築が急務であると考えています。筑紫病院循環器内科においては、急患を速やかに受け入れ、病診、病病連携に特に積極的で、柔軟で、常に地域医療への貢献意識を持った診療を実践したいと考えております。



2020年以降、大変な紆余曲折を経験した筑紫病院循環器内科ですが、今後も医局員一同、「選ばず」「断らず」をキーワードに、PCI/EVT 症例数の確保と、心不全パンデミックへの迅速な対応を通じて、地域医療への貢献を図っていきたくと考えています。今後とも皆様のお力添えを、是非とも宜しくお願い申し上げます。

福岡大学筑紫病院
循環器内科教授 河村彰

福岡大学西新病院 心血管・リズムセンター

福岡大学西新病院では、2021年4月より、循環器診療の充実を図るために心臓血管・リズムセンターを開設いたしました。循環器専門分野は三浦伸一郎院長、西川宏明副院長を含めて常勤医9名体制(うち日本循環器学会専門医6名)で診療を行っております。西川宏明副院長(心血管インターベンション治療学会専門医・指導医)を中

心として冠血管形成術(PCI)を行っており、当院ではローターブレードやダイヤモンドバックも使用可能でありあらゆる病変に対して的確に治療を行っています。それに加えて則松賢治先生(心血管インターベンション治療学会認定医、動脈硬化会専門医・指導医)が閉塞性動脈硬化症(ASO)の患者さんに対して積極的に末梢血管形成術(EVT)を施行しております。不整脈治療としては福岡大学病院で長年不整脈診療に従事し、今回内科診療部長を拝命いたしました森井誠士(日本不整脈心電学会認定不整脈専門医)がカテーテルアブレーションやペースメーカー植込み術等を長田芳久先生と共に行っており、平日は常時治療が可能になりました。弁膜症や心不全に関しては河野靖先生(超音波専門医・指導医)や二見真紀人先生(重症心不全・移植専攻医育成プログラム終了)、大西菜月先生を中心に、心エコー、経食道心エコー等で正確な弁膜症や血栓等の評価、また重症心不全治療から地域包括ケア病床まで幅広く診療しており、外来の心臓リハビリテーションも積極的に行っています。また現在Covid-19感染症が猛威を振るい、病院等でもクラスター等のニュースをたびたび耳にしますが、当科は病棟医長の井上寛子先生がインフェクションコントロールドクター(ICD)の資格を持っており、今年はCovid-19の院内感染は認めておらず、安全に診療が行えております。

循環器診療は、これまでの急性期医療に加え、慢性期・維持期医療まで整備され、24時間365日患者の受け入れが可能ですので、患者さんのご紹介の程よろしくお願いたします。

福岡大学西新病院

内科診療部長 森井誠士

カテーテルアブレーションの適応疾患

○上室性頻拍

- (1)発作性上室性頻拍(PSVT)
 - ①AVNRT(房室結節性リエントリー性頻拍)
 - ②AVRT(房室リエントリー性頻拍: WPW synd)
 - ③その他
- (2)心房細動(Af)
- (3)心房粗動(AFL: 通常型 or 非通常型)
- (4)心房頻拍(AT)
- (5)上室期外収縮(APC)

○心室性頻拍

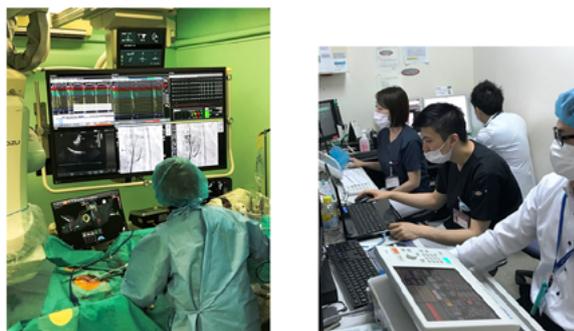
- (1)心室期外収縮(PVC)
- (2)心室頻拍(VT)
- (3)その他

カテ室



アブレーション施行中の1シーン
当院はモニターへ心内心電図、3D画像を表示の上、アブレーションを施行しており、3D mappingシステムで患者に安全な治療を行う。

カテ室



業者やME、放射線技師と連携し治療を行う。

カテ室



CAGは通常、術者2名以上で参加し、施行医と指導医が付いている。
モニター画面には透視画像の他、心電図、CT画像、以前の透視画像が表示される。

カテ室



当院カテ室scene
透視アームは1台、モニター1台
看護師の記録台が背部に備わり
真横にはモニター操作室が控えている。

カテ室



他にもアブレーション、ペースメーカー植え込みもカテ室で行っている。
アームや表示パネルは自在に移動でき、術者に合わせ調整可能である。

外来心臓リハビリテーション

- 2020年11月より導入
- 2021年4月1日時点で19例(主に慢性心不全)
- リハビリプログラム: CPXで処方 (ウォームアップ10分、エルゴメーター10-20分、クールダウン10分)
- 循環器医、理学療法士が担当
必要時、栄養指導(栄養士)や生活指導、服薬指導(看護師)を行う
- 毎日午前1枠午後1枠で実施



福岡大学西新病院
Fukuoka University West Shin Hospital

病棟

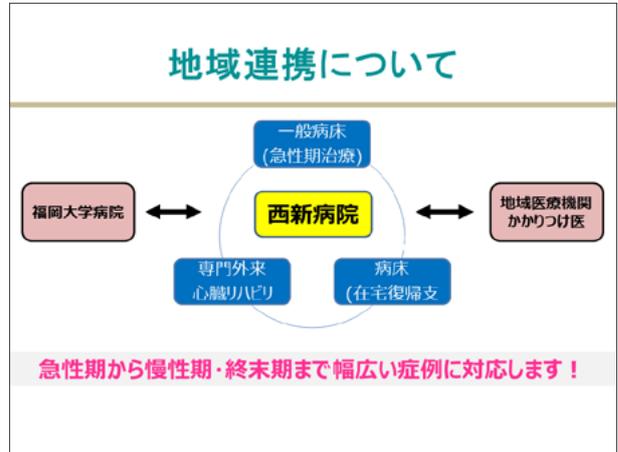


外来での心臓リハビリ外来を開通しており10数名の外来患者も担当している。
病棟担当と外来担当の時間を区切り感染予防も同時に徹底している。

病棟



当院では心臓リハビリ医が一人常駐しており日々心臓リハビリを行っている。
嚥下訓練や脳神経障害に伴う機能訓練までカバーしている。



Prof. S. Miura's Commentary

福岡大学は、地域医療に貢献すべく、3つの病院「福岡大学病院」、「福岡大学筑紫病院」、「福岡大学西新病院」を開通し、「患者さん中心の寄り添うあたたかい医療」を展開しております。筑紫病院循環器内科は、河村先生が2020年4月より教授として就任され、循環器診療の益々の充実に取り組まれています。また、西新病院では、2021年4月より更なる循環器診療の充実を図るため、「心血管・リズムセンター」を開通し、西川副院長を中心として福岡大学病院などの高度急性期医療機関との密な連携により、地域医療と高度医療とを橋渡しできる新しい型の地域医療連携を可能にできる病院を目指しています。両病院とも先生方の地域医療のニーズに答えるべく発展的改革を実現する所存ですので、ご指導・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。